




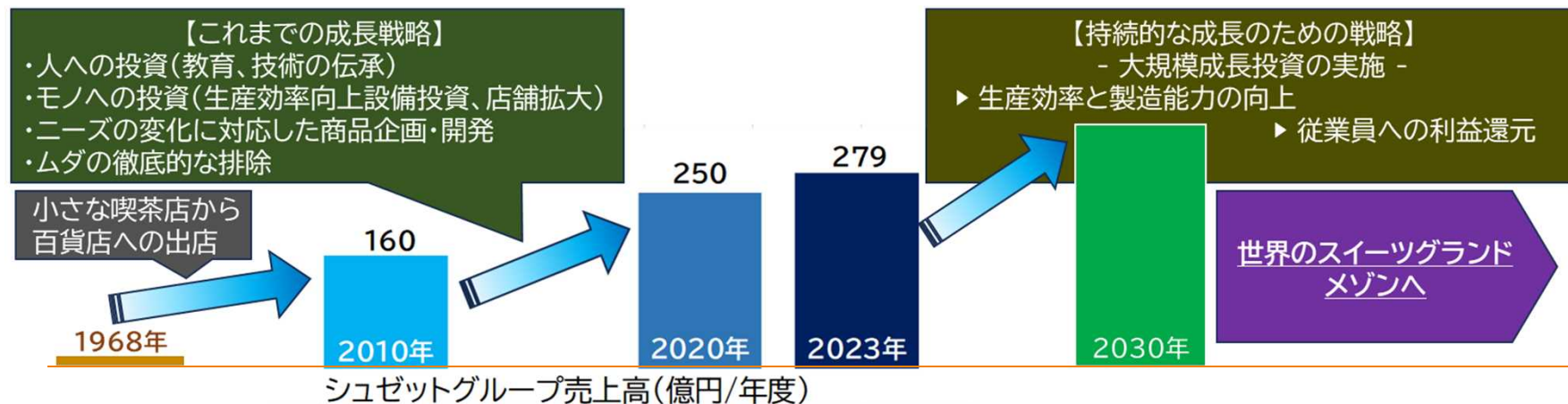


株式会社シュゼット・ホールディングス

1. 長期成長ビジョン（会社概要）

【当社グループ概要】 当シュゼットグループは1968年に創業し、選びぬいた素材を使い、オリジナルの製造技術と改良を重ね、お菓子の美味しさを追い求め続けており、国際的にもその品質・味などが認められた企業である。
 ・グループ売上高：1968年喫茶店創業(神戸市芦屋) ▶2010年160億円 ▶2023年279億円

創業	1968年1月18日（株式会社アンリ・シャルパンティエ）		主な実績	<p>＜アンリ・シャルパンティエ＞ 販売個数世界一 代表商品「フィナンシェ」が、年間販売個数において8年連続で世界一位（ギネス認定）</p>  
本社所在地	兵庫県西宮市久保町5-16 ハーバースタジオ43南館			
事業内容	菓子・パン類の製造・販売ならびに喫茶、左記に関する付帯業務			
ブランド展開 および 店舗数 2025年4月1日 現在	<div><p>＜アンリ・シャルパンティエ＞ 計100店舗 （国内94、海外6店舗） 芦屋のスイーツ文化を世界へ （主力商品：フィナンシェ）</p><p>＜シーキューブ＞ 42店舗 お菓子で幸せなつながりを （主力商品：焼きティラミス）</p><p>＜カサネオ＞ 1店舗 究極に「リアル(本物)」なスイーツ （主力商品：ミルクレープ）</p><p>＜バックハウスイリエ＞ 4店舗 （主力商品：クリームパン） 素材・製法にこだわった様々なパンをお届け。</p></div>			
事業所	・ハーバースタジオ43(本社・工場):兵庫県西宮市久保町5-16 ・横浜リバーサイドスタジオ(工場):横浜市港北区北新横浜2-1-1 ・銀座オフィス(事務所):東京都中央区銀座2-8-20 ・シュゼット・インターナショナル:111 Somerset Road, #03-09, Singapore			



1. 長期成長ビジョン

- ・「使命(Mission)」菓子と生きかたをつくる。
- ・「目指す場所／姿(Vision)」世界のスイーツグランメゾンになる。



長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

「使命(Mission)」菓子と生きかたをつくる。

たったひとつのお菓子が、お客様を笑顔にし、幸せにする。創業のきっかけとなったその感動は、どんなに時代が変わっても揺らぐことのないわたしたちのお菓子づくりの原点です。

そして創業から半世紀以上を経て、私たちは、お菓子が持つさらなる可能性に気づきました。

- ・お菓子は、言葉の壁も国境も越えることができる。
- ・喜怒哀楽のすべてに寄り添うことができる。
- ・地域や生産者が抱える課題までも解決することができる。
- ・その人を想い、人生に寄り添ったお菓子を届けることで「生きかた」をもつることができる。

お菓子そのものだけではなくその先にある「こと」のためにお菓子はある。食べる方の人生に寄り添い、生きかたをつくるお菓子を届けることこそ、私たちが最も大切にしていることです。

「目指す場所／姿(Vision)」世界のスイーツグランメゾンになる。

創業以来、長きにわたり「たったひとつのお菓子から、心ときめくシーンを演出する」という企業理念を掲げてきました。当グループは新たなビジョンとして「世界のスイーツグランメゾンになる」を掲げました。グランメゾンとは「大きな家」を意味する言葉。個性的なブランドが立ち並び、世界中のあらゆる「生きかた」に影響を与える大きな家。そんな姿を目指してお菓子の可能性を信じ、広げ続けます。

コンソーシアム全体の売上成長目標（2024→2030年）

- ・売上高 84%増
- ・売上高増加額 135億円増

コンソーシアム全体の賃上げ目標

- ・5.1%（基準年度～事業化報告3年目の年平均）

外発的動機 ▶ 「日本発の洋菓子文化」を世界へ「厳しい経営環境」

- ・洋菓子業界ではケーキ店など「街の洋菓子店」の倒産が急増。2024年度に発生した「洋菓子店」の倒産は過去最多を更新
- ・原材料や包装資材の仕入価格や水光熱費、物流コストの高騰、人手不足など
- ・コンビニや大手洋菓子チェーン店などの安価なスイーツとの競争激化

「事業領域の拡大」

- ・厳しい経営環境のなか、当社は創業以来、商品企画から販売に至るまで一貫して自社プロデュースを行う体制を敷いており、自社ノウハウを活用した高価値ブランド構築のためのコンサルティング事業等、さまざまな事業へと領域を拡大

「日本発の洋菓子文化を世界へ・ユニバーサルブランドの展開」

- ・2014年にはシンガポールへ出店し、“日本発の洋菓子文化”をアジア、欧米、世界へと発信するユニバーサルブランドの展開を目指しています

内発的動機 ▶ 日本の「手わざ」を残しつつ、生産性を上げる

1969年、青い炎が印象的なデセール『クレープ・シュゼット』を提供する喫茶店として兵庫県芦屋市に誕生しました。

創業から半世紀以上を経て、現在は4ブランド、国内100店舗、海外6店舗を展開しています。

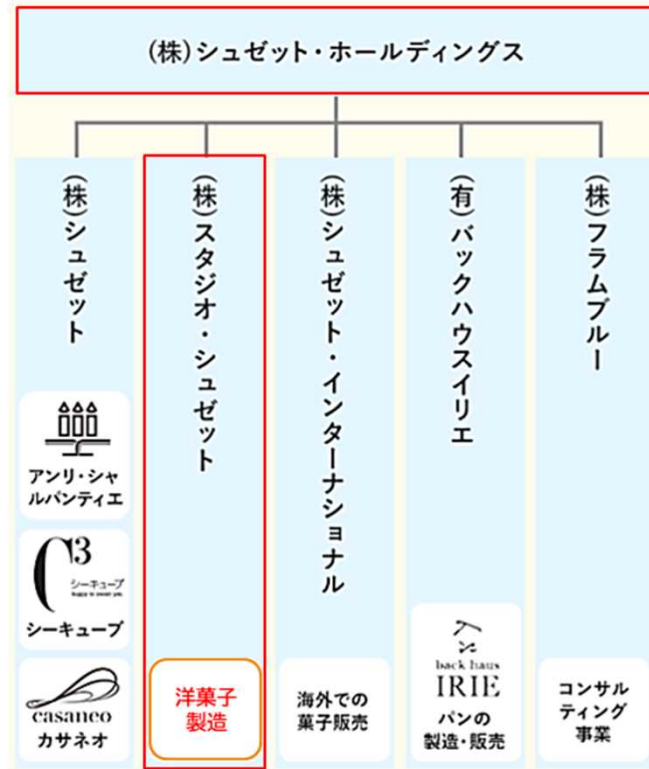
洋菓子世界大会第1位のパティシエを有し、創業より「生ケーキはすべて手作りにこだわる」など「世界最高峰の技術でお菓子文化を生み出す会社」として、日本の「手わざ（手作り）」を残しつつ、生産性を上げるという相反する課題に対応するため、製造工程や物流過程の最適化、製造設備やDX、販路拡大、これらを担う人への積極的かつ継続的な成長投資を行い、100年先を見据えたお菓子作りを通じ、さまざまなシーンにおいて忘れられない感動をお届けすることを使命(Mission)として成長を続けます。

株式会社シュゼット・ホールディングス

1.長期成長ビジョン（参考資料）

【コンソーシアム構成企業】株式会社シュゼット・ホールディングス(幹事企業)・株式会社スタジオ・シュゼット

▶ 創業50年を迎え、経営企画・管理部門と製造部門が一体となり、次の50年への更なる成長に向けた大規模成長投資を実施する



【沿革】

- 1969年 兵庫県芦屋市で15坪の喫茶店「アンリ・シャルパンティエ」を開店
- 1975年 アンリ・シャルパンティエ神戸そごう（現 神戸阪急）店を出店「フィナンシェ」を発売、代表商品となる。
- 1980～90年代 百貨店（デパ地下）洋菓子の先駆けとして「デパ地下洋菓子業界」を牽引
- 1997年 洋菓子製造工場「ハーバースタジオ43」（当社では工場を「スタジオ」と呼んでいる）竣工
- 2000年代 駅・空港の交通系店舗（以下「駅ナカ」「空ナカ」という）に展開
- 2014年 海外出店1号店「シンガポール アンリ・シャルパンティエ デンプシービル店」を開店
- 2010～20年代 トヨタ生産方式を導入、製造工程改善を繰り返し、生産性向上、内製化、製造量増に成功（工場規模を拡大せずに製造売上1.7倍に）代表商品「フィナンシェ」が年間販売個数世界一へ（8年連続ギネス世界記録認定）
- 2023年 第18回クーブ・デュ・モンド・ドゥ・ラ・パティスリーにおいて当社の駒居 崇宏が団長を務める日本チームが世界1位となる



創業50年を迎え、次の50年への更なる成長に向けた大規模成長投資の実施

【大規模成長投資の実施】

- 2025～ 新工場（西宮浜工場、今津工場）建設
- 2027年 （更なる生産性向上、製造量増を図る）
- 2030年 売上高297.1億円、労働生産性200%向上

【大規模成長投資内容】コンソーシアム合計投資額100.9億円

西宮浜工場：焼き菓子製造、今津工場：生菓子製造

株式会社シュゼット・ホールディングス ▶2工場(西宮浜・今津)建屋等建設（投資額95.9億円）▶製造設備導入に伴う横浜工場改良

株式会社スタジオ・シュゼット（投資額5.1億円）▶製造設備導入



（幹事企業）株式会社シュゼット・ホールディングス

本社:兵庫県西宮市久保町5-16
資本金:10,000,000円 従業員数:74名
事業内容:経営企画、経営管理(総務・経理)
資産管理

（参加企業）株式会社スタジオ・シュゼット

本社:兵庫県西宮市久保町5-16
資本金:100,000,000円 従業員数:329名
事業内容:洋菓子(焼き菓子・生菓子)の製造

2.補助事業の概要

【大規模成長投資の概要】

大規模成長投資により、労働生産性を高め構造的な賃上げを実現する計画

▶「ヒト・モノ」への継続的な投資により、「日本発の菓子の「ラグジュアリーブランド」を確立する

補助事業の 背景・目的

- 主要事業への大規模な成長投資 ▶日本発の“洋菓子文化”を世界へと発信するユニバーサルブランド構築に向け、コンソーシアム2社を含む当社グループ全体の持続的な成長に欠かせない大規模成長投資を行い、労働生産性向上と構造的な賃上げを実現する

事業費
(補助額)

104億円
(34億円)

設備投資の 内容

【設備投資内容】

- 焼き菓子製造工場(西宮浜工場)と生菓子製造工場(今津工場)の新設
- 焼き菓子最新製造設備の導入
- 食用ゼリー最新充填設備の導入(横浜工場)

【投資内容と目的】

投資内容	投資目的	投資内容	投資額
西宮浜工場 今津工場の建設	製造規模の拡大	・現工場床面積7,800㎡ →西宮浜工場10,000㎡ 今津工場5,000㎡に拡大	95.9 億円
	レジリエンス強化	・製造工場の多拠点化	
自社オリジナル 最新型製造設備 の導入	生産能力向上省力化	・最新技術を導入した焼き菓子製造ラインの導入	5.1 億円
	新商品製造	・食用ゼリー最新型製造設備の導入	



目標値

項目	コンソーシアム構成企業	2027年度(基準年度)	2030年度(基準年度+3年後)
労働生産性 (単位:万円/人)	シュゼット・ホールディングス	1,261	1,383 (年平均上昇率+3.1%)
	スタジオ・シュゼット	884	1,194 (年平均上昇率+10.5%)
	2社合算	953	1,229 (年平均上昇率+8.8)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位:万円/人)	シュゼット・ホールディングス	523	606 (年平均上昇率+5.0%)
	スタジオ・シュゼット	兵庫 339	392 (年平均上昇率+5.0%)
		横浜 345	400 (年平均上昇率+5.0%)
	2社合算	373	433 (年平均上昇率+5.1%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位:万円/人)	シュゼット・ホールディングス	-	-
	スタジオ・シュゼット	兵庫 -	-
		横浜 -	-
	2社合算	-	-
補助事業に係る従業員数 (単位:人)	シュゼット・ホールディングス	84	112 (年平均上昇率+10.1%)
	スタジオ・シュゼット	兵庫 303	402 (年平均上昇率+9.9%)
		横浜 74	87 (年平均上昇率+5.5%)
	2社合算	461	601 (年平均上昇率+9.2%)

【大規模成長投資の内容】 補助事業での設備投資（Phase1）と更なる設備投資（Phase2）を実行する
 ▶ Phase1+Phase2 での大規模投資により、大きく成長する事業基盤を確立する

大規模成長投資の必要性①	<ul style="list-style-type: none"> 製造工程の最適化・効率化を図ってきたが、需要増加等に対応し、持続的な成長を実現するための更なる生産性向上・効率化、製造規模拡大を図る必要がある 現在のスタジオ(工場、本社)は定期借地上に建設されたものであり、2029年には契約が切れ、契約更新が出来ない状況にある 工場が位置する西宮市には自然が醸し出す奇跡の酒造用水とされる地下水「宮水」が存在しており、厳格な排水処理が求められているが、現在の排水処理施設の処理能力は上限に達している 製造設備の一部(オープン)にアスベスト使用の古い機材が存在する
大規模成長投資の必要性②	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場での百貨店(デパ地下)店舗でのトップポジションを堅持し、更なる成長のための交通系(駅ナカ・空ナカ)店舗、EC販売強化、インバウンド需要取り込み等の成功戦略実現には製造規模拡大と省力化が必須な課題である 主力商品の「フィナンシェ」を軸とした新ブランド・新業態への進出を計画、焼き菓子製造ラインの製造能力を高める必要がある



Phase1での投資内容	投資目的	投資内容	投資額
西宮浜工場・今津工場の建設	製造規模の拡大	・現工場床面積7,800㎡ →西宮浜工場10,000㎡、今津工場5,000㎡に拡大	95.9億円
	レジリエンス強化	・製造工場の多拠点化	
自社オリジナル最新型製造設備の導入	生産能力向上省力化	・最新技術を導入した焼き菓子製造ラインの導入	5.1億円
	新商品製造	・食用ゼリー最新型製造設備の導入	